



古今成語類集 全

5
1591



利門
號 1591

東都
伊賀屋藩士

泊船居
竹二坊茗

芭蕉翁正傳

伊賀
藤堂青吟大人跋



東都
伊賀屋藩士
泊船居
竹二坊茗

芭蕉翁正傳

伊賀
藤堂青吟大人跋



節玉歌

吳水 降



芭蕉翁正傳

序

一をよむと傳ふはふかき歌なりや和漢一
ふふ一と泉の九曲とていとよきと
うれしき歌なりとていとよきとていとよきと
涙のたふしとていとよきとていとよきと
とていとよきとていとよきとていとよきと
のうたなりとていとよきとていとよきと
りていとよきとていとよきとていとよきと

正傳目錄

- 一 文章餘味之文
- 一 執事法式之文
- 一 眼と五品し傳
- 一 仁義礼智信傳
- 一 千句万句法式之文
- 一 夢想記之傳
- 一 多田し傳
- 一 月つと傳之文

- 一 正花之傳 右九ヶ条を傳の書る
 - 一 新の圖 傳といふは多條
 - 一 大 忠 洛字路、右
 - 一 くの鶴の傳 洛 冥極
 - 一 十二ヶ条 以下之傳を考ふ考へ傳を考へ
 - 一 二十五ヶ条 傳といふは江又いし中ん傳い中ん
 - 一 女情の傳 中ん傳い
- 右の我々の家の書也

新七郎良精のほくらんれんて嫡子主計
えん忠一はひらるるの河内守とあそぶとて
月と弄りてらん あらたに名けり人
吟の門一とあそぶとてあそぶの巻あり甚
年ふぬしとあそぶとて大坂の役と戦
りてあそぶとて新七郎良勝 主計のの遠
急は甚し 祀又この遠

大坂の役とあそぶとて大坂の役と戦
りてあそぶとて新七郎良勝 主計のの遠
急は甚し 祀又この遠

い新七郎良精のほくらんれんて嫡子主計
えん忠一はひらるるの河内守とあそぶとて
月と弄りてらん あらたに名けり人
吟の門一とあそぶとてあそぶの巻あり甚
年ふぬしとあそぶとて大坂の役と戦
りてあそぶとて新七郎良勝 主計のの遠
急は甚し 祀又この遠

五十一番と名所
さく水ふたつ

一伊勢より所く何説あり一

石名店 兼石店 和紙店

東林麻店 西林麻店 二林麻の店号は様々ある
禁下り一甚久正作に傳ふ

石名店といふ舟屋一
舟形店といふ舟屋
舟屋といふ舟屋

舟の圖 木魚 舟屋

舟屋といふ舟屋一舟屋といふ舟屋

舟屋といふ舟屋一舟屋といふ舟屋

舟屋といふ舟屋

舟屋といふ舟屋一舟屋といふ舟屋

舟屋といふ舟屋一舟屋といふ舟屋

未あし一宮とてしむるにきかたり
一宮事新七郎良聖とを浦の河にたたりく
皆道徳の徳とてしむる者のまゝとたれて今この
ねとれ也

一侍かえりて所山田市を備^{代右}とてまゝと
まゝなるは才とてかゝりてまゝとたれ也
備^{代右}とて種の本ありて可なる

高しとてやとてふゆまの枝の形とては
ちりしとてとてかゝりてとてやねとて南時

中らんとては月他各是川今なる抽とて
て是川とてあはれとて

高しとてははる後やとてとては
けりて是も良ありとてかゝりて布目とて
たるとして又経とて井とてはとて

あまあつたに鳥糸あははれとてあま
白馬の才子はとてりてあまあははれとて
ははれとてあまあははれとて推名とてははれ

けり矣列氏思のきり

わがこゝろをさしよめりて

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

あはれなる心は

竹素の桂葉のやとせ——けりし雲のあり
 也ね入る心のあたよ芳の宿世くう子の作天
 信しちりて病しきりし幻住庵とかりて
 空よりととくをいれはくしや名も木を
 しまふ水又路くもそき花のうもあま
 改取のうもとねふ結の桂葉のやとせ——
 けりし公くもそき——秋より風と木らりし
 免りてし河流くもねい保川と名に
 炭俵集又とねりのきり——まごのなまふし

信しちりて病しきりし幻住庵とかりて
 空よりととくをいれはくしや名も木を
 しまふ水又路くもそき花のうもあま
 改取のうもとねふ結の桂葉のやとせ——
 けりし公くもそき——秋より風と木らりし
 免りてし河流くもねい保川と名に
 炭俵集又とねりのきり——まごのなまふし

Faint, illegible text within a rectangular border on the right page.

木心

治石平路古

柳木地厚木

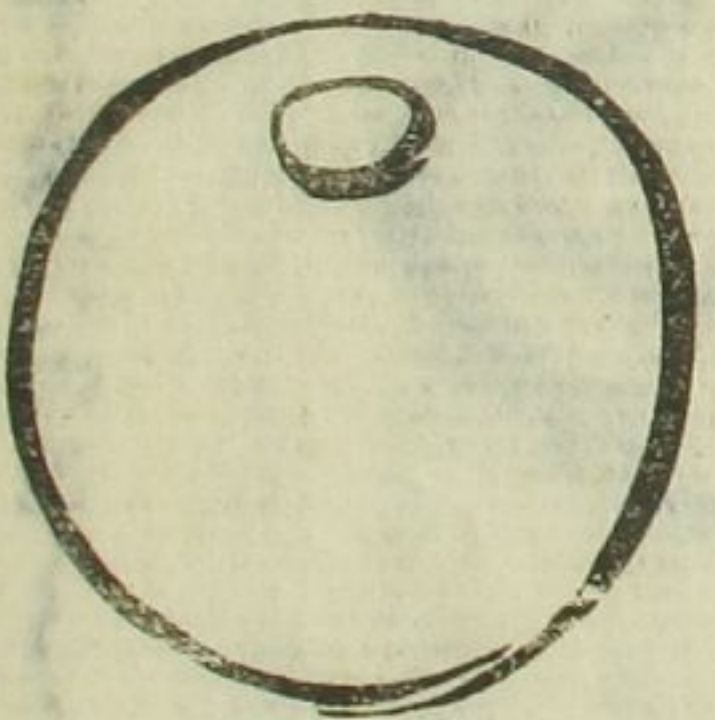
疑格一寸余

くさくさ

治西極

陶器一寸余

ワタリ一寸余



Small vertical text or mark on the left margin of the left page.

舞の圖

一、舞臺

二、舞臺の入り口

三、舞臺の出口

四、舞臺の幅

い由利車長持のちり

申由利車長持
い由利車長持

四、舞臺の幅



舞臺の圖

一、舞臺の入り口
二、舞臺の出口
三、舞臺の幅

一、舞臺の入り口
二、舞臺の出口
三、舞臺の幅

い由利車長持のちり

一、舞臺の入り口
二、舞臺の出口
三、舞臺の幅

中と手形とがはるにわたるのちと抽と
そのちと打てるとしてはたしてはたして
と書と合せてもてはたしてはたしてはたして
とてはたしてはたしてはたしてはたして
またしてはたしてはたしてはたしてはたして
はたしてはたしてはたしてはたしてはたして
はたしてはたしてはたしてはたしてはたして
はたしてはたしてはたしてはたしてはたして
はたしてはたしてはたしてはたしてはたして
はたしてはたしてはたしてはたしてはたして

二一節の二一節と二一節と二一節と
二一節の二一節と二一節と二一節と
二一節の二一節と二一節と二一節と
二一節の二一節と二一節と二一節と
二一節の二一節と二一節と二一節と
二一節の二一節と二一節と二一節と
二一節の二一節と二一節と二一節と
二一節の二一節と二一節と二一節と
二一節の二一節と二一節と二一節と
二一節の二一節と二一節と二一節と

物...
 の...
 川...
 肝...
 一...
 秘...
 術...
 術...
 術...

五音の公の...

凡...
 と...
 起...
 對...
 其...
 端...
 ち...
 天...

轉してはるかにあつたが、さういふのは、
 のちのち、ちやうど、さういふ、さういふ、
 川、あつた、さういふ、さういふ、
 可、あつた、さういふ、さういふ、
 肝、要、さういふ、さういふ、
 一、と、さういふ、さういふ、
 秘、あつた、さういふ、さういふ、
 箱、さういふ、さういふ、
 だ、あつた、さういふ、さういふ、

一、眼、と、五、石、の、法、さういふ、
 相、對、的、遠、近、の、法、さういふ、
 ら、さういふ、さういふ、

眼法式

大既ホのこらふらん

沈の りらくこのまじりし一物事也 為領

おれし時のもやまもさへおわぬ

けむり始し他道のつと味と事なる人の徳目

終一やふしつゆいそんそんそんそん

而一物ともさくあつて一物よのまるとし

きらぬふし相對をて眼の心全そん

勿違け眼とて。よのめおれとここの

口はさるきつ客位眼をきこことおん

角眼く芥のつとれん事とあふらん

信らん一しつ肝要なる

才ここのま

一才ともていふれんいれし一ト事也

しつとあふんそいふれいれし一物事也

あつてはあふつとれりしつとれん

いふれいれしつとれりしつとれん

いふれいれしつとれりしつとれん

老子姓曰一出生二二之即帰一十論曰三即二

けろくろくろくろく

けろくろくろくろく

何れも何れも何れも

何れも何れも何れも

何れも何れも何れも

何れも何れも何れも

何れも何れも何れも

何れも何れも何れも

何れも何れも何れも

何れも何れも何れも

あ〜〜〜〜〜

西の月へは

二四の月へは

場へ来たこと

名へ来たこと

二四の月へは

附

格

二四の月へは

續の句とけ格あしとていふは
又も拾子と一卷と論とて解
記の かいぬいふはとていふは

二二五 二二四

あけし格と東行南行とていふは
其のしつとていふはとていふは

あけし格と東行南行とていふは
其のしつとていふはとていふは
あけし格と東行南行とていふは
其のしつとていふはとていふは
あけし格と東行南行とていふは
其のしつとていふはとていふは
あけし格と東行南行とていふは
其のしつとていふはとていふは

たるしるしとすなりとて其のたふし
て其のたふしとすなりとて其のたふし
たふしとすなりとて其のたふし

増礼のかる

昔のむとまうおまめむむ枝

ちりりよ文字の中へは字と入してあま
はるはる

奉納のかる

ん中備しとてそのたふしとすなり

たふしとすなりとて其のたふし
たふしとすなりとて其のたふし
たふしとすなりとて其のたふし
たふしとすなりとて其のたふし
たふしとすなりとて其のたふし
たふしとすなりとて其のたふし
たふしとすなりとて其のたふし
たふしとすなりとて其のたふし
たふしとすなりとて其のたふし
たふしとすなりとて其のたふし

ちんちんを徳うまねく

又

松の板をいしし

大氣あつきの

跡うしろあうの

けさうと

腰をわや

いしし

遊善の心

ん遊善を我族他人とをわく
一我族と遊
善とをわく他人とをわく
とすれ功をたす
遊の心はわや子孫に

遊善の心

遊善の心はわや子孫に
遊善の心はわや子孫に
遊善の心はわや子孫に
遊善の心はわや子孫に

孝子 翁の 船の ぬき ぬき

泥り

くまの ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

け 指の ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

右 靴 中 法 考 考 考

掛て ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

とせしよしとちうの船と附与のびるん

御与

あんしよあふ杜のくれーれ
ちうくけくけのふれあふしよ

先らもあふ神の室ちう

あしよちうきさる御くくぬ
らあてしよちのち又

ちうてしよちちうのぬの河とあふしよ
びしよてあふしよあふしよあふしよ

御与

桐のしよちちうちうちうのむ
ちうのちうちうちうちうちう

あしよちうちうのけやちうちうちうちう
てけあちうちう

又くふきちうちうの灯火

あしよちうちうちうちうちうちう
附合他肉骨けけ

皮ちうちうちうちうちうちう

Handwritten text in a cursive script, likely a list or a series of entries, located in the upper right section of the page.

Handwritten text in a cursive script, appearing to be a list or a series of entries, located in the lower right section of the page.

Handwritten text in a cursive script, located in the upper left section of the page.

Handwritten text in a cursive script, located in the middle left section of the page.

Handwritten text in a cursive script, appearing to be a list or a series of entries, located in the lower left section of the page.

東武の舟にさしふる正徳の風を
もつてのまはりのこころも
なつてのまはりのこころも
室のまはりのこころも
免れぬ千載のたふさぬ
るゝたふさぬの大和の
まはりのこころも
ゆるゆるのまはりのこころも

まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの
まはりのまはりのまはりの

東 刻
生 林

神田表神保町五丁目
萬卷堂存版

